

日本人の苦手な文法ワースト5

・《ワースト1位》 冠詞

日本人の間違えているワーストNo.1 文法テーマは冠詞です！平均四単語に一回程度使う必要があり、ネイティブはまずこれを間違える事はありません。文字数自体はとて少なく、相手が推測しながら読めば全く意味が伝わらないということは少ないかもしれませんが、まずネイティブは冠詞を間違えないものなので、冠詞の間違いはあなたの英語がノンネイティブであることをはっきりと表してしまいます！直さなくても済むけど、ネイティブが受け取るあなたの英語の印象を変える為に学びましょう！

《ワースト2位》 時制

「時制」の選択ミスはワースト2位！「時制」は一文に一回は使う必修の文法テーマ。時制を間違えると単に過去・未来・現在というだけではなく、伝わる意味も変わってくるのをご存知でしたか？

《ワースト3位》 前置詞

前置詞、もう多すぎて、諦めていませんか？英語を母国語としない方にとって、前置詞は最も使用や理解が困難な文法の一つと言われています。私たち日本人が容易に理解できなくても不思議ではないのです。前置詞を理解できないことはごく自然なこと、と言語学の世界では言われていますが、前置詞にもコアとなる1つのイメージを押さえれば攻略はそれほど難しい事ではありません。in は広い場所、at は狭い場所などのように間違えて覚えて来た方はネイティブの感覚を学んで下さい。

《ワースト4位》 関係代名詞

日本人の英語は大きく2パターンに分類されます。短く、シンプルな英語を書く方。関係代名詞や修飾語を多用しすぎて、長く難しく読みづらい英語を書く方。どちらかというと前者の方がまだオススメですが、短くシンプルな文章は、まるで小学生の作文のような印象を与えます。少し込み入ったことをスマートに表現しようとしたとたん、どう表現していいかわからなくて短く細切れの文章になってしまう・・・そんな悩みがある方は関係代名詞を学んで下さい。2つの文章を関係代名詞で1つにすることはできるけど、いつ関係代名詞を使うべきなのか正しく理解されている方が少ないです。学校とは違う、関係代名詞の正しい使い方を学んで下さい。

《ワースト5位》 助動詞

ほとんどの日本人の英語は「受験英語の間違った狭い知識でカッチカッチになっている状態」です。

「can=できる」、「should=べきだ」、「will=be going to」、「must=have to」など自分で英語を使う上では意思疎通の大きな障害になっているこれらの誤解を直して、正しい英語を再インストールしてください。助動詞は感情表現に直結するので、助動詞が分からないままだと、「映画や洋書の面白さが半減どころか皆無」と感じられる方多いはず。

以上、統計的に日本人が苦手なワースト文法5つをご紹介してきましたが、受験英語と世界で使われている英語が違うと知ること、正しく英語を使う上でのスタート地点かなとも思います。

最新情報・お知らせ

●《重要》翌月からの各種変更（休会・退会など）の手続きの届出締切日は20日までです。お間違いのないようお願い致します。一部欠席された場合、あるいは20日までに休会・退会のご連絡がなかった場合、特別な理由を除き後からの払い戻しはできませんのでご了承ください。

●「英語で多読クラブ」受講生による「インターンシップ」が8月いっぱい行われます。幼稚園クラスや小学校低学年クラスに参加し、英語本の読み聞かせなどのボランティアをしながら授業を手伝ってくれます。お楽しみに！

●英検集中講座が始まっています。4級・3級の講座は9月に予定しています。英検にチャレンジしたい方はぜひお申込み下さい。受講料は郵貯銀行より、お月謝と一緒に引き落とさせていただきます。

●8月11日～17日は夏季休暇のため、すべてのクラスはお休みです。

●英検受験(10月7日(日))希望の方は早めにスクールまでお知らせください。今回は5級～3級受験となります。英検 Jr は10月頃を予定しています。

●《8～9月の振替日》9月以降は振替ページをご参照下さい。
<https://airsv.net/arkacademy/calendar>

スーパーキッズ	8月18日(土)、9月15日(土)
キッズ①&①+	8月25日(土)、9月22日(土)
キッズ②&②+	8月21日(火)、9月18日(火)
キッズ③&③+	8月28日(火)、9月25日(火)
パイリンガル中学生	8月4日(土)、9月1日(土)

ARK ACADEMY

アークアカデミー英会話教室

三田市あかしあ台4-8-1

Tel / Fax : 079-563-3132

Email: info.ark.academy@gmail.com

ホームページ「アークアカデミー英会話教室」で検索

フェイスブック: www.facebook.com/ark.academy.sanda



アークアカデミー通信

News Letter Aug 2018

Vol.94



★Contents★

- はじめに ■日本人の苦手な文法ワースト5
- ワクワクインターシップ
- 今月の誕生日 ■脅威のプレゼンテーション
- 夏休み英語で自由研究 ■最新情報・お知らせ

はじめに

一泊二日のイングリッシュキャンプが無事終了しました。暑くて熱い2日間、私達スタッフも、子供達と共に時間を過ごす事でたくさんの事を学ぶ事ができました。キャンプのテーマはSTEM。Science, technology, engineering, mathの頭文字をとっているのですが、日本語だといわゆる「理数系」というイメージに近いかもしれませんが、日本だと、「理系」「文系」というふうに学習の可能性に限界をつけたがるのですが、学ぶという事はあらゆる知識や事実・経験に照らし合わせながら真理を探究するもの、文系や理系という枠組みでぐっってしまう事に非常に違和感を感じてはいます。

このキャンプは英語をコミュニケーションの道具として体感してもらう事、STEMをもっと身近に親しんでもらえる事、そして子供達と教室を超えた関係を築きたいという事を目的としたものでした。たくさんのアクティビティを企画したものの、子供達は本来持っている想像力や創造力、そして主体性を発揮し、私達が用意した枠組み以上の学びを経験している姿に驚きと感動を覚えました。紙皿1つからでも遊びを創造し、学びがあり、そこから友達との関係性を築く事ができる事ですね。大人の役割は、適切な枠組を提供する事かなとも思いました。

新しいアークのホームページには;

「私達は、子供達は本来、自分自身の世界を模索しようとする積極的な学習者であり、思考と感情を持ち合わせた個々の独立した存在だと信じています。その為、カリキュラムは子供中心(child-centered teaching)を重要なベースだと考えており、子供達が試行錯誤しながら学んでいく過程を尊重し、内面から湧き上がる自発性を大切にしています。教師の役割は、知識を与えるだけではなく、子供達が本来持っている能力や可能性に気づく事ができるよう手助けする事であり、それらを引き出してあげる事が使命だと考えています」という事を書いておりましたが、ますますその言葉が真実味を持つ2日間だったと思います。

英語ももちろん頑張りましたよ!! スタッフが思っている以上に英語を理解しており、驚かされました。英語はコミュニケーションの道具なんだ、という感覚を身に付けてもらえればうれしいです

英語で多読クラブの受講生による ワクワクインターシッピング

去年に引き続き、今年も「英語で多読クラブ」の受講生有志によるワクワクインターシッピングが8月に企画されます。

インターシッピングは「職業訓練制度」と訳される事が多いですが、幼稚園クラスや、小学校低学年クラスにボランティアとして参加し、英語の絵本を読んだり、英語学習のお手伝いをしながら、英語のアウトプットを実践してもらおう事が狙いです。英語はコミュニケーションの道具なので、自己完結で満足していると実力は伸びません。インプットした英語をアウトプットする事によって、体に英語が浸み込み、英語を英語で理解できる力がついてきます。でもこの企画は、英語学習だけが目的ではなく、自分が誰かの役に立ち喜んでもらえた、という経験を通して、子供達に健全な自尊心を育ててもらいたい、というのが私達の願いでもあります。たくさん遊んで、たくさん学んで、大きく成長する素敵な夏になるといいですね！

夏休み 英語で自由研究

楽しい夏休み！でも宿題の多さに毎日悪戦苦闘しているご家族も多いのでは？特に高学年になると、夏休みじゃない時の方が楽、と思えるほど、質・量ともにボリュームがアップしますね・・・（溜息）これは本当に必要なのかしら？という課題もなきにしもあらず、という感じもします。特に読書感想文と夏休みの自由研究には、親も泣かされます（うちだけかしら??）。

夏休みの自由研究、毎年毎年何かの観察だったり、何かを作ったり実験したりしているうちに、なんとなくネタが尽きてしまったような気持ちになっている人もいないでしょうか。ささいな不思議や疑問点を追求する、という視点で言えば、ネタは無限にそのへんに転がっているはずですが、なんとなく平凡に思えたり、興味がわかなくなったり・・・

そんな方に英語で自由研究をご提案します。なんととっても良い所は、直接英語の実力や興味に繋がる事。例えば外来語の研究や、英語の語源の研究。歴史や文化など、アイデア次第で、広がりが出てくるのは言語というテーマの良い所かと思えます。

また、難易度は高くなりますが、私たちが普段使っている日本語と英語は、何が違うのかの研究をし、さらになぜ日本人が英語を習得するのに苦労してしまうのかを考察したりするのもいいかもしれません。これを調べるには、両方の言語の過去を振り返る事も必要ですし、文化を知ることも必要です。英語の自由研究を通じて、逆に日本語や日本の文化を深く知るきっかけになるかもしれませんね。

おもしろい研究が出来上がれば、アークアカデミーでも紹介させていただきます！と思っていますので、お気軽にお声がけ下さい。

Happy Birthday

8月2日
8月3日
8月6日
8月9日
8月11日
8月11日
8月15日
8月18日
8月20日
8月21日
8月23日
8月23日
8月25日
8月26日
8月27日
8月28日
8月29日
8月31日

おめでとうございます！

8月のスクールカレンダー

月	火	水	木	金	土	日
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

※8月6日～8月10日はサマースクールです。



北米の子供達はこうして学ぶ 驚異のプレゼンテーション

もうすっかり日本でもお馴染みになったTED。世界的なエキスパートが、自身の専門分野を持っている可能性を圧倒的な表現力で伝えてくれる革命的な学習コンテンツ。たった18分のプレゼンテーションですが、世界の認識を変えてしまうようなスピーチに出会えることが度々あります。このTEDでいつも感心してしまうのは、エキスパート達のプレゼンの素晴らしさ！その内容のみならず、聴者との繋がりを生み出すあのダイナミックな表現力は、幼い頃より訓練されてきた成果のようです。アメリカでは3歳くらいから、“Show & Tell”または“Sharing”と呼ばれる時間に、自分のお気に入りのおもちゃ、本などを発表する時間が週一度くらいあり、3年くらいかけて、大勢の人の前で発表すること自体に慣らせます。そして、2年生から本格的な発表練習となります。テーマは、最近の時事問題、好きな詩、など様々ですが、年間を通して、毎週課題テーマに沿って、一人あたり2～3分の持ち時間でクラス全員の前でプレゼンテーションをします。その評価基準は次の通り；

- 1点：* 準備ができていない
- 2点：* 全てメモを見ながらの発表
* 聴いている人へのアイコンタクトなし
* 声が小さい
* 先生の手助けが必要
* 序論と結論がない
- 3点：* 大きな声で発表ができた
* 聴いてる人へのアイコンタクトができた
* メモを見るのは時々
* 序論と結論がわかりやすく伝えられた
- 4点：* 3点のチェック項目全部できた
* トピックについてしっかりした説明ができ、質問にも的確に答えられた
* 発表の方法に工夫が見られた(ビジュアルなど)
* 発表内容を暗記していた



3点以上取れてやっと合格、ということです。日本の小学1年生へ要求される内容としては、かなりレベルが高いです。

プレゼンテーションをするためには、Critical Thinking (批判的思考)の能力や、自分の意見や考え持ち、それを論理的に述べる力が必要となってくるわけですが、欧米の子供達はそれらのトレーニングを小さい頃から学校で、そして家庭でも受けています。英語という言葉自体が論理的思考に基づいた言語なので、生まれた時から論理的に考える力をトレーニングされるといっても過言ではないかもしれません。

また、人に聞いてもらえるには、大きな声ではっきりと喋る必要があります。日本の子供達に英語を教えていると、まず発声練習が必要かなと思う時もしばしばあります。小さな声でぼそぼそ喋るのは、「やる気がない」と、かなりシビアに受け止められるので、大きな声で自信をもってしゃべるトレーニングも大切だと思っています。みんなの前で発言する機会を、もっと公共教育でも取り入れられるといいですね。